

人々の想い乗せ、つどい、にぎわう兵庫運河

かつて物を運ぶために開発された兵庫運河が、今区民の憩いの場として、たくさんの生き物がすむ場としてよみがえっている。近年では、兵庫運河祭やレガッタ、パドルボート等の取り組みが行われ、真珠貝プロジェクトも継続している。昔、現在、これからの兵庫運河について兵庫区役所まちづくり課、向井淳係長にお話を聞いた。

◆水質改善までの道のり

昔は物資運搬の水路として作られた運河で更に高度経済成長の影響、貯木場としての活用により油やゴミが多く、とても綺麗と言える状態ではなかった。そこで、これ以上水質汚濁が悪化してはいけないという事から木材会社を中心とする地元企業によって1971年4月に「兵庫運河を美しくする会」が設立された。また、真珠貝プロジェクトで運河に放されたアコヤ貝も大きく水質改善の手助けをしている。この取り組みは、二枚貝が摂食する際に水をろ過する働きを利用して運河をきれいにできないだろうかという思いから始まったものだ。

◆誰もが歩きたくするような運河へ

兵庫運河には地元住民によく親しまれている屋形船がある。運河をライトアップすることにより区民の憩いの場としてだけでなく全国的な観光名所にしていこうとしている。

神戸屋形観光汽船が2014年4月26日に就航し、昼は運河の歴史と兵庫区を辿り、



夜には輝く夜景の中でディナーが楽しめる。昔から兵庫運河を見てきて、屋形船の船頭を務める今井正樹さんは「歴史もあり、日本で一番大きい兵庫運河を全国へと広め、多くの方の心に『船の浮かぶ運河、の景色が残るようになってほしい』と語る。現在乗船するほとんどの人が食事をメインとしているため、今井さんは地元との連携を図り、運河の活性化につながるような事業にしていこうと考えて



◎快くインタビューを受けてくださったまちづくり課の向井淳さん ◎屋形船の船頭、今井正樹さん ◎兵庫運河のライトアップ(予定)

いる。

また、2017年6月30日、神戸市中央卸売市場本場跡地にイオンモールが開業するに伴い、運河をライトで彩る計画が進んでいる。兵庫区役所によると、兵庫津の物語を思わせるような平安の頃より親しまれ好まれてきた色彩と心地の良い間接照明を設け、光のベンチと組み合わせるとい

今井さんによると、同モールの開業と同時に別会社を立ち上げて兵庫運河を巡る船旅が満喫できるツアーを予定しており「もっと兵庫運河自体の良いところをアピールしていき、多くの人へ伝えていきたい」と意気込んでいる。

優しい光に包まれた兵庫運河、そこに美しい船が浮かぶ姿を想像するだけでも期待が膨らむ。

これから、兵庫運河は誰もが歩きたくなる、歩いて楽しくなるような運河へと

変わろうとしている。

家族や恋人、友人という大切な人との一時も将来の兵庫運河で過ごす事で「特別な一時に変わる事だろう。地元の人達に支えられてきたこの兵庫運河がその人達の想いを乗せより素敵な場となり兵庫区民だけでなく全国の人の憩いの場になるように願う。

記事・佐藤明日香
梅井 未桜
写真・佐藤明日香

(株)神戸屋形観光汽船

電話	☎070・5438・1677
営業	1便 11:00~13:00 2便 14:30~16:30 3便 18:00~20:00
定休	水曜日
備考	2名様~貸切応相談
出航	神戸港中突堤中央ターミナル

昨年に開催された「減災デザインプランニング・コンペ2015」でB班の作品「Happy Flower~Carry pillow~」が奨励賞(審査員賞)を受賞しました。50点以上ある作品の中で唯一の高校生の作品として、模型モデルとプレゼンテーションによる二次審査でも見事審査員の心を掴んだ。「Happy Flower~りぼろしぶる~」を創ったメンバーの1人である児島由香さんに話を聞いた。



実際に「Happy Flower~りぼろしぶる~」を使ったプレゼンテーション

「防災グッズについてどう思いますか?」
「防災グッズ」と聞くと堅苦しいイメージがあり、グッズがそばにあるのとないうる。災害にあう前、あった時、あった後、自分の意識や知識があればあるほど防災グッズの可能性は広がると思います。りぼろしぶるについてどう思いますか?」
「受賞した感想?」
私たちがより専門的で多くの知識をもっている大学生の方々の作品もあつたので、まさかその中から選ばれたとは思っていませんでした。シニアの方や芸術大学のお姉さん、他校の子たちと苦労しながら多くの方に知っていただくことができてよかったです。

記事・写真 王国屹

「震災を生かして!!」

「防災グッズ」と聞くと堅苦しいイメージがあり、グッズがそばにあるのとないうる。災害にあう前、あった時、あった後、自分の意識や知識があればあるほど防災グッズの可能性は広がると思います。りぼろしぶるについてどう思いますか?」
「受賞した感想?」
私たちがより専門的で多くの知識をもっている大学生の方々の作品もあつたので、まさかその中から選ばれたとは思っていませんでした。シニアの方や芸術大学のお姉さん、他校の子たちと苦労しながら多くの方に知っていただくことができてよかったです。

「この大会の意義はどのようなのですか?」
「この大会の意義はどのようなのですか?」
「この大会の意義はどのようなのですか?」

記事・写真 王国屹

神戸生まれの清盛隊。本年結成5年目

~時空(とき)を超えて~

12月23日、神戸市中央区の「北野工房のまち」で神戸・清盛隊が演舞を行っているのを見た。この演舞で、私たちはお客さんとの一体感、歌やダンスのパフォーマンスの素晴らしさ、盛り上がりをもっと面白く、また来たくなり、充実した2時間を過ごすことができた。その後貴重な時間を頂いて、清盛隊の皆さんにお話を伺った。



神戸・清盛隊の方々との記念写真

インタビューはユーモアあふれる回答が次々と飛び出してきた。しかし、清盛隊の方々はある強い気持ちを持って舞台に立っているということが取材をしていく中で分かってきた。彼らは、清盛の文化について知ってもらおうという目標としているのだ。その中でも独自の祭りのようなイベントを通じメッセージを発信したいという思いが伝わってきた。

「演舞を通してお客さんの反応を直接見る事ができ、応援してもらえることが嬉しい」そうだ。また、「一般的にあまり良くないイメージを持たれがちな平家の印象を変えることができること」にもやりがいを感じているという。「そのためより多くの人にこの演舞を見てほしい、もっと知ってもらいたい」と話す。

演舞のための稽古は必要不可欠なものである。メンバーはデビューするまで半年、長いときには朝から晩まで練習を

したり、より演舞を磨くために努力を積み重ねてきた。「平安時代から来た」彼らなのだが、「現代の人々に親しんでもらえるよう平成の時代に合った振り付けも取り入れている」という。そんなメンバーから学生へメッセージをいただいた。「皆さんの学園祭や文化祭には是非お呼びいただきたい。現在の教科書では、平安時代はさらっとした記述で終わっているのだから、清盛隊を通じて楽しみながら歴史を知って欲しい。是非、この新聞を見て興味を持たれた方は、我らに会いに来てくださりませ」とのこと。タイムスリップして来てくれた彼らの演舞を見に行くと楽しく歴史を学んでみてはどうだろうか。

記事・中井 里音
写真・中井 里音
藤本 真耶

編集後記



読者に関心を持ってもらうように考えることは、難しい作業でした。しかしその分楽しさや達成感を感じることができました。新聞を作ることはおもしろかったので、また機会があれば、参加したいです。

■王 国屹@市立神港高校 去年に続き今年も記者クラブに参加することができ、とっても嬉しかったです。去年と違い、今年は自分の手で二つの記事を書きました。まだまだ本物の記事とはほど遠いですが、自身の成長を感じることができました! 今回の記者クラブを通して、さらに自身の文章力やコミュニケーション力を上げることができたと思います。これからの生活に生かしたいです! ありがとうごさいます!

■池田 真唯@市立神港高校 今回この活動に参加するのは2度目だったのですが、前回の参加時よりももっと自分書きたかった記事がとてスムーズに書けたと感じました。前回の参加時に多くの方からアドバイスをいただき、活かされて本当に良かったなと思います。

■中井 里音@兵庫高校 今回初めて、本格的な新聞記事を書かせてもらって始めは全くと言っていいほどアイデアも浮かばず本当に自分ができるか心配でした。記事を書くときも普段とは違い言葉遣いに気を付けたり、どうしたら読む側から読んでほしい、おもしろいかなどを考えて書くのは大変でした。でも、いろいろ考えるのはとても楽しかったし、いい経験になりました。集まったときの雰囲気も良かったです。

■藤本 真耶@兵庫高校 この経験を通して最も印象に残っていることは、取材をするの大変さです。取材をするとなんと、まず取材先の方とコミュニケーションをとらなければなりません。今回、私が取材させていただいた方々は、とても親切で落ち着いた取材をするのができました。次に新聞記事には真実を書かなければならないので、必ず取材のメモをとるのですが、そのために相手の方にゆっくり話してもらわなければならないと思います。そのため、後で見て理解できるように素早く考え、整理してメモを取る作業は集中力を要しました。他にも写真の撮り方など取材の内容を考える作業な

かし、いざ取材をすると、訪問したご方も優しく丁寧に対応していただき、楽しく取材することができました。文章の書き方もプロの方から学ぶことができ、良い経験になったと思います。

■谷水 風太@兵庫高校 この記者クラブの活動は初めてのことで不安もたくさんあったけど、充実した時間を過ごすことができました。新聞記事は相手に伝えなければならぬのでただ文章を書くよりも難しかったです。でも、青少年記者団の皆さんや記者の方のサポートのおかげで無事書ききることができました。ありがとうございました。

■藤井 晴斗@兵庫高校 今回のこの記者クラブが初めての新聞作成経験でした。僕は今まで兵庫区についてほとんど知りませんでした。ノエビアスタジアムやラマーネ巡りなど、様々な場所での取材を通して、兵庫区の魅力を知ることができました。この新聞を読んで兵庫区についてもっと皆さんに

知ってもらえたら嬉しいです。この経験をこれから活かしていけたらいいなと思います。

■佐藤明日香@兵庫工業高校 もっとも自分が気になっていた事を調べていく中で沢山の貴重な体験ができました。さらに沢山のの方にインタビューする事で、色々な考えや、思いがあるのだと学ぶ事が沢山ありました。ありがとうございました。

■梅井 未桜@兵庫工業高校 学校で所属している新聞委員会の活動では出来ないような事も沢山あり、とても良い経験になったと思います。この活動を委員会だけでなくこれからの生活にも生かしていきたいです。ありがとうございました。

■園尾 菜穂@兵庫工業高校 取材をしながらいろいろな魅力や人に触れ合うことができたのでとても楽しく活動できました。この体験を部活でも生かせることができたいと思います。